

2026年 第51回

視点

全国公募写真展

写真はいずれも2025年「視点」の入選・入賞作品です

個性豊かな写真を募ります
一人で何点でも応募できます

作品募集

テーマ、内容は自由

単写真または最大8枚までの組写真
(ヤング部門は5枚以下)

写真サイズ A4または六切のプリント
応募資格にいったいの制限はありません

送付受付 1月15日(木)～2月16日(月)

展 示：東京都美術館 (上野公園内)

会 期：6月6日(土)～6月13日(土)

巡回展：仙台、関西、三重、富山

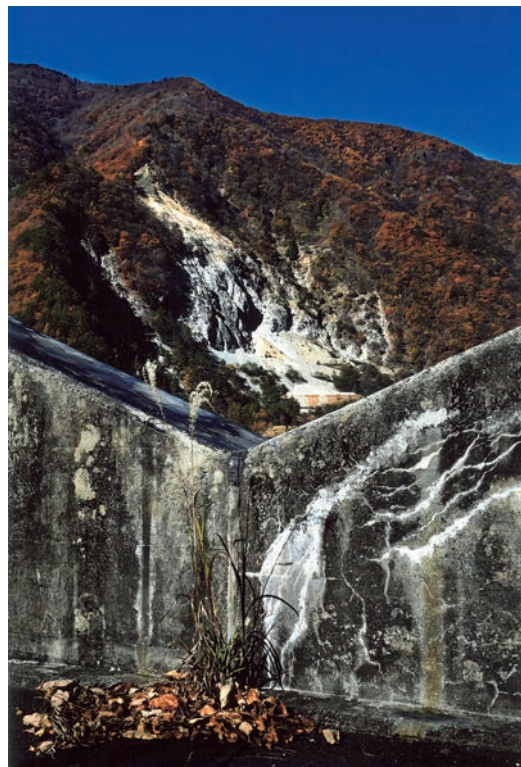
全入選作品を収録した写真集「視点」を同時刊行



特選「一隅」(単)高橋芳明 撮影地・新潟市



特選「朝の街角」(2枚組)富田康代 撮影地・富山市



視点賞「リニアが通る村」(6枚組)久保村厚

「視点」各賞 ヤング部門 あります

視 点 賞 1名 土門拳揮毫「視点」額
(賞状と賞金 30万円)

奨 励 賞 3名 (賞状と賞金 10万円)

優 秀 賞 7名 (賞状と賞金 3万円)

特 選 10名 (賞状と賞金 1万円)

ヤング賞 1名 (賞状と賞金 5万円・副賞あり)

準ヤング賞 3名 (賞状と賞金 1万円・副賞あり)

入 選 (賞状と写真集「視点」)

主催 日本リアリズム写真集団(JRP)／2026「視点」委員会

〒160-0004 東京都新宿区四谷3-12 沢登ビル6F <https://www.jrp.gr.jp> Email: jrp@jrp.gr.jp

問い合わせ先 (13:00～18:00) TEL: 03-3355-1461 FAX: 03-3355-1462



優秀賞「心安らぐ刻」(4枚組)石津武史

JRPと視点の応募規定はコチラ



「朝の散歩道」(単)橋本信博



奨励賞「お兄ちゃん」(4枚組)中野光代



「망향-望郷-」(単)池田玲



準ヤング賞「秘密」(単)吉岡来美

第51回 視点 選考委員



さとう
よしえ

佐藤仁重

東京・六本木生まれ。女子美術短期大学造形科卒。日本写真家協会会員。ニコナレッジ講師。全日本写真連盟関東本部委員。日本各地から世界各地の撮影を重ね、個展を多数開催。各種写真誌等で作品発表。写真教室や撮影指導、フォトコンテスト審査員等。写真集「紐育(ニューヨーク)の休日」「THE BIG APPLE」他。

「視点」の作品は、迫力ある組写真や力強い単写真で、撮影者のメッセージをはっきりと伝えてくれるものばかりです。そしてテーマや世界観を独自の感性でまとめたパワフルなものが多いと言う印象もあります。今回選考委員としてその作品選出に携われることについて、心から嬉しく思います。写真表現は瞬間を切り取った魅力ある芸術です。そして皆様の素晴らしい力作に出会えることを今からワクワク楽しみにしています。

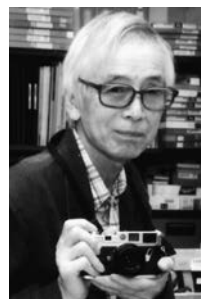


しみず
てつろう

清水哲朗

1975年横浜市生まれ。日本写真芸術専門学校卒業後、写真家竹内敏信の助手を務め、23歳でフリーランスに。独自の視点で自然風景からスナップ、ドキュメンタリーまで幅広く撮影。第1回名取洋之助写真賞、2014日本写真協会賞新人賞、2016さがみはら写真新人奨励賞 公益社団法人日本写真家協会理事

ライフワークのモンゴル取材も気がつけば30年。インフラ、食料、生活用品、交通手段に至るまで、ないものはない時代から当たり前にモノがある時代になり、人々の考えも生活スタイルも様変わりしました。便利になった一方で心の豊かさは減ったような気がします。過去の作品を見返して感じたのは日常記録の重要性。半世紀続く『視点』展も然り。あなたの撮る写真が100年後の人が見て驚く内容かもしれません。さあ、撮りましょう、応募しましょう。



はなぶさ
しんぞう

英 伸 三

1936年千葉市生まれ。農村問題などを通して日本社会の姿を追いつけている。1992年から中国の市場経済導入による江南の古い街や村の変貌を追っている。伊奈信男賞など受賞。写真集『一所懸命の時代』など多数。JPS名誉会員、JRP代表理事、現代写真研究所所長。

第1回から「視点」展の選考にかかわり、たくさんの作品に接してきました。絶好の瞬間を捉えた場面や風景には、撮影者の撮らずにいられなかったという強い意志と、鋭い発見の目が感じられ、素晴らしい作品として応募して下さったことに感謝の念がわきます。

今回は回を重ねて51回目です。撮影者の視点を感じられる力作を多数お寄せくださるようお願いいたします。



なかむら
こうろう

中村 梧 郎

フォトジャーナリスト。1940年生まれ。1970年以降ベトナム戦争を取材、環境問題も追求。75年第1回視点大賞、83年第8回伊奈信男賞、2007年MAGNUMに招待されニューヨークで枯葉剤写真展。元・岐阜大学教授。JRP代表理事、JCJ代表委員。「母は枯葉剤を浴びた・岩波現代文庫」、「環境百禍」、「記者追撃・花伝社」他

写真を撮るとというのは実に楽しいことです。そこにあるのは、自分だけが見つけた「美しさ」であったり、思い出を固定することだったりします。でも対象は「美しいもの」に限りません。画面の構成を選ばだけで見事な「絵」がうまれたりします。視線を更に広げれば、いま社会で起きている物事さえも捉えることができます。写真は言語のように多才です。ことばを操るように写真表現で遊んでみる……リラックスして新作に挑戦してみてください。



おつじ
やすお

尾辻弥寿雄

1945年/長崎市生まれ。横浜市在住。2000年/通信社写真部を経てフリーカメラマンへ●写真集／「長崎・照射の夏」「鎌倉景」「バリ漫步景」「Shanghai Bear・上海鼓動」「Pearl Harbor 海の向こうの戦争遺跡」「歴史の軌跡 平和を求めて」など●個展多数 視点展各賞受賞●JPS会員、JRP会員、現代写真研究所運営委員長

写真ほど面白いものはありません。シャッターを押す力と気持ちがあれば、誰でもどこでも写真が撮れるのです。街をさまよい、花に囲まれ、人混みに紛れ、被災地へ飛び、感情が揺れるままにレンズが動いていきます。そこに、喜びや悲しみ、怒りの感情が溢れたオリジナルな写真が出来上がります。自分の思いを誰かと共有できると、こんな喜びはありません。全国の人々と共有できる場が視点展です。ぜひ応募して自分の思いを伝えてください。